

Canon EXPO 2023 参加報告

華岡青洲記念病院 山口隆義

皆様、明けましておめでとう御座います。華岡青洲記念病院の山口です。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。昨年末は、研究会での講演や書籍の執筆など、いくつかの仕事が重なり忙しくしておりましたが、全てをクリアし、お正月を満喫していると思います（この原稿を書いているのは年末なもので・・・）。

さて、皆様は Canon EXPO というイベントをご存知でしょうか？我々CT ユーザーにとってキヤノンのイベントと言えば、画論や Advanced Imaging Seminar, Global Standard CT Symposium などがありますが、この Canon EXPO はキヤノンメディカルシステムズとしてではなく、キヤノン全体の最先端技術の展示会として 5 年に 1 度開催される催しだそうです。キヤノンメディカルシステムズは 2018 年スタートなので、この展示に参加されるのは今回が初めてという事でした。パシフィコ横浜のノースを展示会場として一般公開は 10 月 17～20 日の 4 日間行われ、私がお邪魔した翌日の 21 日は社員および社員家族のための公開日でした。今回は画論の審査員としての打ち合わせが同会場に隣接する場所で行われた関係で、参加させて頂く事が出来ました。

会場に入って、まず目にしたのは、一番手前にメディカルのブースがあって、そこに立位 CT ともう 1 台見たことのない CT や MRI が鎮座している光景でした。キヤノンといえばプリンター技術やカメラ、レンズの技術など世界的に有名な分野がありますが、それらがその左右に展示されており、メディカルへの力の入れ方を強く感じる事ができました。係の方にお聞きした所、CT や MRI の寝台が子供たちのアトラクションとして人気があるとの事でした。そのほか超音波装置なども展示されており、さながら ITEM のような雰囲気を感じました。

会場はとても広く、プリンター技術やカメラの技術を応用した今

まで見たことのない展示も多くあり、キヤノンという企業の凄さを感じる事ができました。ナノレベルの半導体作成に関してもキヤノンの転写技術が用いられていたり、あらゆるリアルタイムの 3D イメージング技術、映像を認識し 3D の仮想空間を瞬時に作成しロボットが AI で自由に動き回る技術、人工衛星からの高精細画像技術など、挙げていくにはきりがないう程の多くの技術展示がされていました。

その中で、我々の医療にイノベーションを起こす可能性があると思ったのが、スマート治療室です。この分野は産学連携で急速に進んでいるようで、もちろん我々がキヤノンも東京女子医大などと連携し開発中のようです。イメージとしては、とある TV 医療ドラマ (Get なんとか!) の OPE 室のような事が現実になりそうだという事です。数年後にはきっとそうなっているでしょう！

この Canon EXPO の次回開催は 5 年後ですが、その頃には、おそらく今回見た未来は現実となっていて、また、その先の未来をキヤノンさんが見せてくれるのだと思います。 **Made for Life!**



